

基準 8. 財務（予算、決算、財務情報の公開等）

8-1. 大学の教育研究目的を達成するために必要な財政基盤を有し、収入と支出のバランスを考慮した運営がなされ、かつ適切に会計処理がなされていること。

《8-1の視点》

(1) 事実の説明（現状）

8-1-① 大学の教育研究目的を達成するために、必要な経費が確保され、かつ収入と支出のバランスを考慮した運営がなされているか。

本学の消費支出比率及び消費収支比率は、平成 13(2001)年度の開学から平成 16(2004)年度の完成年度を迎えるまでは 100%を超過していたが、平成 20(2008)年度はそれぞれ 84.9%及び 86.8%になっている。その完成年度までの支出の超過は、学生の収容定員を満たす前段階における人件費や設備等への先行投資が原因である。

本学の平成 20(2008)年度の帰属収入の主な内訳は、学生生徒等納付金 92.6%、寄付金 0.2%、補助金 4.9%という比率になっている。平成 16(2004)年度の完成年度満了後に補助金の交付を受け、若干比率が変わったものの、帰属収入の大部分を学生生徒等納付金が占めている。

それに対し、本学の平成 20(2008)年度の消費支出の主な内訳は、人件費 56.7%、教育研究経費 18.7%、管理経費 9.4%、借入金等利息 0.1%という比率になっている。過去 5 年の推移をみると、人件費比率が低下傾向にあり、教育研究経費の向上に努めている。

法人全体として、自己資金比率は 90%から 80%台で推移している。この比率は負債との相対的な関係にあるが、平成 18(2006)年度から若干負債が増加しているのは主に本法人が用地を取得したことによるものである。また、新校舎建設の関係で流動比率も平成 16 年度と平成 17(2005)年度に 100%を割っているものの、現在は 100%を越え、固定長期適合率も 100%以内に収まっている。

8-1-② 適切に会計処理がなされているか。

本学の会計処理は、学校法人会計基準及び本法人の「学校法人峯徳学園経理規程」、「学校法人峯徳学園経理規程施行細則」に基づいて適切に行われている。

予算は教育研究やその他の学事計画と密接な関連をもっており、本学の予算編成の基本方針は理事長が決定し、予算大綱を定めた上で予算責任者に通知する。予算責任者は予算積算書を理事長に提出し、予算責任者との協議の上で予算原案を作成することになっている。そして、その原案に基づいて予算案を作成し、最終的に理事会の審議・承認を得て決定する。

予算執行は、予算責任者の責任の下で常時確認されている。最終的に、年度末には予算執行状況報告書が作成される。そして、この報告書は次年度の予算編成する際にも参考資料として活用されている。

8-1-③ 会計監査等が適正に行なわれているか。

本法人における会計監査には、監事による財産の状況等の監査と公認会計士による会計監査とがある。

監事は理事会が開催されれば常時出席し、その都度、議案について助言が提示されたり、意見交換を行ったりしている。

また、公認会計士による監査は期末における財務諸表等の監査にとどまらず、少なくとも半年に1度の来学を仰ぎ、監査を受け、助言を提示されたり、意見交換を行ったりしている。さらに、財務諸表等の監査結果については、過去に遡ってみても指摘事項がなく、適正な会計処理が行われている旨の監査報告書を得ている。なお、監査結果は理事会及び評議員会に議題として提出され、承認を得ている。

(2) 8-1の自己評価

本学は、平成13(2001)年度に「人間学部人間文化学科」と「経営学部経営学科」の2学部2学科体制で開学し、完成年度を迎えた翌年の平成17(2005)年度から人間学部には「幼児発達学科」(平成21(2009)年度より「子ども発達学科」)、経営学部には「会計学科」を設置し、2学部4学科体制で現在に至っている。平成20(2008)年度は増設した上記2学科の完成年度を迎え、ようやく大学創生期における基盤を整備したという点で節目を迎える時期である。

財務比率をみると、2学科新設に伴う先行投資があり、学年進行中にもかかわらず、消費支出比率及び消費収支比率ともに完成年度満了後の平成17(2005)年度から90前後を保っており、経費確保及び収支のバランスいずれも良好である。

人件費比率および教育研究経費比率の低下傾向は減額によるものではなく、収入の増加に応じた相対的なものである。その中で、管理経費が増加したのは、厳しさを増している学生募集や知名度向上のための広報に関する費用の増加によるものである。いずれの傾向も本学全体の収支のバランスを大きく崩すものではないが、今後の様子を観察し、教育研究を行っていく上での収支全体のバランスを欠くような状況になっていると判断すれば、ただちに原因を精査し、迅速に対応しなければならないと考えている。

法人全体として自己資金構成比率や総負債比率の現状は、その変動の原因が教育研究の充実に必要な基盤整備による一時的なものであり、継続的な収支のバランス悪化に起因するものではない。また、流動比率が100%以上であること及び固定長期適合率が100%以下であることや、基本金比率が100%近いことを考え合わせても、支払能力及び安定性という面でも健全な財政基盤を有している。開学後も基盤整備を優先して先行投資を行っているが、今後はいずれの数値も安定し、継続的に良い傾向を保つように運営してゆく必要がある。

(3) 8-1の改善・向上方策(将来計画)

大学は建学の精神に基づいた教育研究機関であると同時に、地域社会と共存する公共性の高い機関である。また、学費を納入し、学んでいる学生並びに保証人はもちろんのこと、国庫負担による助成を受けているという点で広く地域社会に対しても説明責任を果たしていく必要がある。この意味で、現在、『埼玉学園大学学報』において財務公開しているが、今後、自由に閲覧可能な本学ホームページ上で大学機関紙を閲覧可能としたり、財務状況の概要を掲載したりといった方法でより積極的に公開していくことを検討している。

また、財務情報はとかく専門的な用語での報告書による情報公開となるので、よりわかり易い公開にも配慮することを検討することとしている。

8-2. 財務情報の公開が適切な方法でなされていること。

《8-2の視点》

(1) 事実の説明(現状)

8-2-① 財務情報の公開が適切な方法でなされているか。

財務情報の公開は、本法人の「学校法人峯徳学園財務情報等の公開に関する規程」に基づいて行われている。この規程には、閲覧書類の種類、請求可能な者、請求手続の方法等が示され、それらに基づいて情報公開がなされている。閲覧可能な書類は、財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書、事業報告書、監事の監査報告書である。請求可能な者は、本法人に在学するものを始め、その他利害関係人となっている。

また、上記のうち財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書については、大学機関紙『埼玉学園大学学報』(年2回発行)の7月発行分に毎年定期的に前年度分を掲載している。本学は学生の成績を春と秋に保証人宛に郵送しているが、この大学機関紙はその際に同封している。またオープンキャンパス参加者などの来訪者にも最新号を配布している。

(2) 8-2の自己評価

上記の規程に基づき、適切に情報公開を行っている。また、大学機関紙を通じて、本法人の主要な財務状況を積極的に公開している。とりわけ、学費を納付している学生ないし保証人には、説明責任を果たすことによって安心かつ納得して学生が学業に執心できるように配慮している。このような財務情報の公開の現状は、適切かつ妥当な状況にある。

ただし、大学における情報公開の意義をさらに広義にとらえて、大学の存在が公共性の高いものであること、情報を必要としているものにとって理解しやすいことという点から鑑みれば、まだ検討する余地はあると考えている。

(3) 8-2の改善・向上方策(将来計画)

大学は建学の精神に基づいた教育研究機関であると同時に、地域社会と共存する公共性の高い機関である。また、学費を納入し、学んでいる学生ならびに保証人はもちろんのこと、国庫負担による助成を受けているという点で広く地域社会に対しても説明責任を果たしていく必要がある。この意味で、今後、自由に閲覧可能な本学ホームページ上で大学機関紙を閲覧可能としたり、財務状況の概要を掲載したりといった方法でより積極的に公開していくことを検討している。

また、財務情報はとかく専門的な用語での報告書による情報公開となるので、よりわかり易い公開にも配慮することを検討することとしている。

8-3. 教育研究を充実させるために、外部資金の導入等の努力がなされていること。

《8-3の視点》

8-3-① 教育研究を充実させるために、寄附金、委託事業、科学研究費補助金、各種G P (Good Practice)などの外部資金の導入や収益事業、資産運用等の努力がなされているか。

(1) 事実の説明(現状)

学生生徒等納付金以外に本学が獲得しうる外部資金には、手数料収入、寄付金収入、補助金収入、資産運用収入、事業収入及び雑収入がある。

中でも、補助金は学生生徒等納付金に次ぐ収入源であり、法人全体として平成 20(2008)年度の補助金比率は 9.0%である。内訳は私立大学等経常費補助金のみである。

手数料収入は主に受験生からの入学検定料や学生からの事務手数料であり、法人全体で 1%程度にすぎない。また、寄付金収入は法人全体で若干計上されているものの学生からは寄付金を募集していないため、本学の収入全体に対する影響はほとんどない。

資産運用収入も限られた額となっている。これは、本法人の寄附行為に定められているように、資産の運用方針が安全な運用先での運用を第一に考えているためであり、さらに大学ないし法人全体の教育研究基盤に資金を投じているために運用額そのものが相対的に少額であるためである。

法人として事業収入が計上されているが、本学における事業収入は主に幼稚園部門の物品販売によるものであり、その分が本学の収入全体に対する影響はほとんどない。

最後に、雑収入があるが、これは主に科学研究費補助金である。平成 20(2008)年度の科学研究費補助金の申請数は 7 件であり、そのうち採択数は 1 件、継続が 3 件である。

(2) 8-3の自己評価

帰属収入における外部資金の割合は 10%程度となっており、内訳も補助金収入にその大部分を占めている。法人全体の運営にかかわる収入と事務上の収入を除くとすれば、科学研究費補助金等の研究に関する収入の更なる獲得努力が必要である。

また、本学がもつ設備や人的資源といった教育研究資源を有効に活用することが新たな収入源となる可能性があり、それに関する検討が課題となっている。

(3) 8-3の改善・向上方策（将来計画）

本学は人文社会科学系統の大学であり、他の事業体からの委託研究が数多く見込めるわけではなく、また本法人の方針も考慮すると、補助金が主な外部資金の導入の方策である。私立大学等経常費補助金は新設 2 学科の完成年度を迎えれば現在よりは増額が見込まれるものの、それに頼ることなく、科学研究費補助金への申請を増やし、採択される努力をしなければならない。学内でも教職員間で共通認識を持ち、申請のための講習会を開催して申請数を向上し、採択率を上げるように努めているところである。

また、大学あるいは学部単位でも文部科学省の大学教育改革の支援における各種プログラムを検討し、教育課程の改革・充実と同時に財政への寄与するような取り組みについて学部会議などを開催し、議論している。

最後に、本学の教育研究活動を活かした新たな収益源を開拓することも課題である。例えば、地元企業などとの連携や一般社会と学生を対象とした課外講座の開催などが考えられる。とりわけ、地域社会への貢献や教育研究環境の充実に資するため、課外講座を開催するエクステンションセンターを平成 20(2008)年度に開設した。現況は上記の観点から無料の公開講座や本学ならびに併設の川口短期大学の学生および卒業生を対象とした事務手数料とテキスト代等の実費のみを徴収する講座が開講されているが、収益事業への育成可能性も含めて、様々な可能性を模索している。

【基準 8 の自己評価】

本学は平成 20(2008)年度に増設した 2 学科の完成年度を迎え、大学創成期における基盤を整備しているという状況にある。

財務比率は、先行投資があった影響で多少の変動があったものの経費確保および収支のバランスいずれも良好である。また、人件費比率・教育研究経費比率・管理経費も本学全体の収支のバランス上は適切な範囲にあるが、大学全体の運営が安定化してゆくにつれてどのような傾向となってゆくのかを観察してゆかなければならない。法人全体として支払能力および安定性という面でも健全な財政基盤を有している。

財務情報の公開は、請求および大学機関紙を通じて、本法人の主要な財務状況を積極的に公開しており、適切かつ妥当な状況ある。ただし、大学における情報公開の範囲や理解しやすい情報提供という点では検討する余地がある。

外部資金による収入源については、補助金収入がその大部分を占めており、科学研究費補助金等の研究に関する収入の獲得努力の必要性和新たな収入源の模索が課題である。

【基準8の改善・向上方策（将来計画）】

自らの頭で考え、自らの足で立ち、豊かなコミュニケーション力をもつ人材を育成するという本学の教育理念である「自立と共生」を起点に、高等教育機関として教育研究を充実させてゆくという方向性は将来も変わらない。財務上は、その将来を見据えた中で限られた収入源と多岐にわたる支出要請のバランスを欠くことのないように留意してゆかなければならない。そして、新たな収益源の検討と支出内容の検討を行った上で、限られた資源を効率的に配分してゆかなければならない。その上で、適時に教育課程等の充実等により、学生募集を安定させることによって財務基盤をさらに改善し、充実してゆくことに重点を置いている。

また、本学の運営は本法人全体の中で高等教育に関する役割を担っており、本法人の経営健全化に関する機関である「学校法人峯徳学園法人経営健全化検討委員会」における本学の将来への展開と財務のバランスを十分に検討し、計画した上での大学運営をしてゆく所存である。